

御手のわざ

主は私にかかわるすべてのことを、感じ逃げてくださいます。主よ。あなたの恵みはとじしたにあります。あなたの御手のわざを捨てないでください。 (詩篇¹³⁸ 篇8節)

ホスピスが一九八四年にスタートして以来、多くのご遺族の方、一般の方、企業関係、また教会関係の方々から献金をいただきました。本当にありがたい、感謝なことだと思っております。

いただいた献金は当初は赤字の補填^{ほてん}に回していましたが、しばらくたつてから赤字を出さずに運営をすることができるようになりました。

それで皆様からいただいた献金を何か良い方法で使うことはできないかと検討し、日本にもっとホスピスの数を増やすために、また、ただ増やすということだけではなくてケアの質

を高めるために設立しようということになったのが、日本ホスピス緩和ケア研究振興財団です。

けれども設立を決めたところまではよかったのですが、国から財団としての認可が下りるまでが大変な道りでした。当時の厚生省からは、とにかく複雑で面倒な指示があり、手続きのひとつひとつに美に多くの時間がかかったのです。

しかし祈りのなかから、そしてまさに神様の「御手のわざ」により、また多くの方々の協力を得て、ついに正式の認可を受けることができ、財団は成立したのでした。

(お世話になった方々には、改めまして心からお礼を申し上げます)

途中で投げ出したくなるような時期もありました。特に、認可が下りたのは厚生省の御用納めの目で、翌年は省庁の再編成で厚生省は厚生労働省になることになっていました。もしずれこんだらまた新しい問題が出てくるのが予想されます。それでその年の年末は、祈りと奇立ちの交差するような、非常に苦しい日々を送りました。

厚生省へ交渉に行ったり、書類を作ったり、会議をしたりということのなかで、私自身は祈りの重要性ということを強く思わされました。もうどうしていいかわからないときにひとりで祈っていると、ふと新しい知恵が浮かんできたり、イライラしているときに祈ることによって心が落ち着いたりということを実際に経験しました。

皇頭の御言葉は、何とか今年じゅうにと思って年の暮れに一生懸命祈っていたときに与えられたものです。

これは有名な御言葉で、さまざま状況にある人々に慰めを与えていると思いますが、ひとつ非常に興味あることを発見いたしました。それは聖書の訳によつて微妙にニュアンスが違ふということです。

新共同訳聖書では「主はわたしのためにすべてを成し遂げてくださいます」と書かれています。これはストリートに、祈っている私自身のためにすべてのことを成し遂げてくださるととれます。約束の種類としては確実な感じがいたします。

新改訳聖書の「私にかかわるすべてのこと」というのは、私だけではなくて私の家族、私が属している団体や組織も含まれるととれます。ですから、神様は私だけではなくて、私が属しているグループにも御手を延べてくださる、ということかと思ひます。

口語訳聖書では「わたしのために、みこころを成し遂げられる」と訳られています。私たちは人間的な思いでこうしてほしいと願うわけですが、それがみこころでなければ成し遂げられない、というふうにとれるのではないかと思ひます。

「御手のわざ」という言葉は三つの聖書に共通して出てきます。ただ、少しずつ表現が違い

まして、新共同訳では「御手の業をどうか放さないでください」という訳になっています。

新改訳と口語訳では「御手のわざを捨てないでください」となっています。

このように、表現や訳し方によつて心への響き方も違つてくるように思ひます。

財団のことを祈っているときに、この「御手のわざをどうか離さないでください」という表現が私の気持ちにいちばんぴたりきました。神様がご自分のわざとして財団設立を進めてくださるということは確信していましたが、途中でうまくいかなくて神様の手から離れてしまつたのではないかと一瞬思ひがしてしたのです。

何事であれ、みこころにかならぬであればまことに神様は実現させてくださる。そう確信して歩いていくことができると思ひます。